

奨励賞



設計者

大日方 淳夫

東京建築士会、(株)竹中工務店 東京本店 設計部

研究所

東京都八王子市戸吹町

日清食品グループ the WAVE

構造・階数

鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造、
鉄筋コンクリート造
地上2階、屋上1階建て

敷地面積

86,768㎡

建築面積

12,826㎡

延床面積

18,638㎡

竣工

平成25年11月30日



A

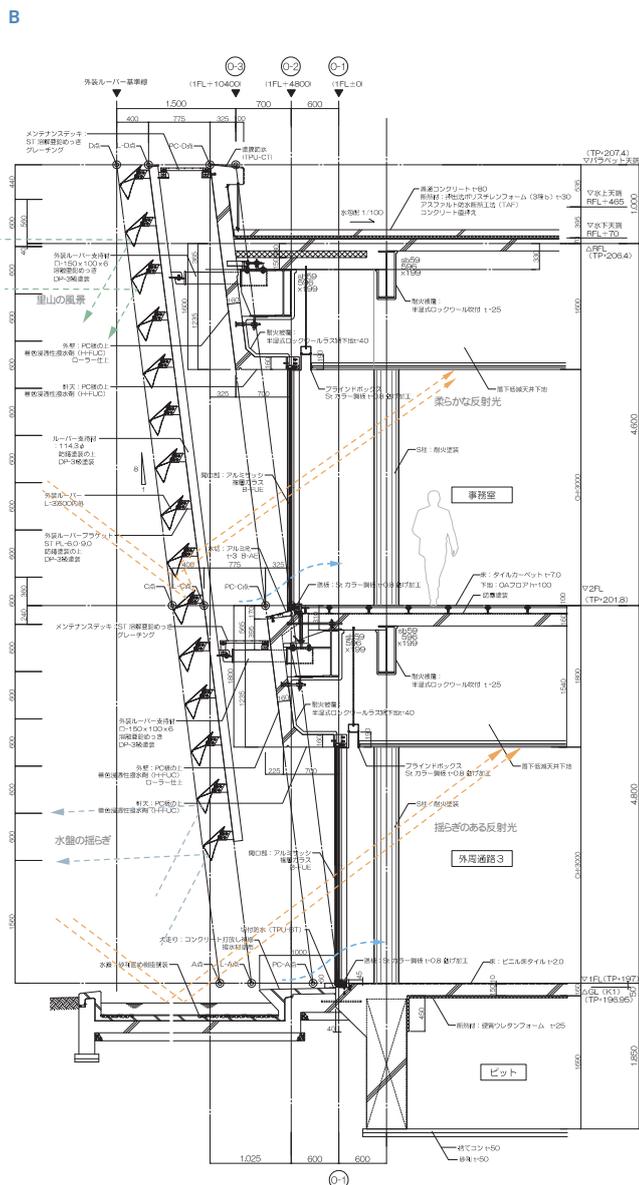
選評

あのチキンラーメンの日清食品の研究開発施設である。さわやかな丘陵の切り開かれた敷地の自然に溶け込むことを狙って、ルー口型という不整形の低層平面を提案。研究開発室と分析室、製造作業室、食堂、接客スペースが自由に配置されている。

機能の差によって場所ごとに变化するファサードに、麵づくりの切刃のイメージというアルミ鏡面の日除け水平ルーバーが全周を覆い、特徴あるシンプルなファサードを形成している。日射遮蔽をかねたホモジニアスな第2の壁面づくりは多くの実例が出てきており、可能性のある手法の一つとなっているが、今回の場合はファサードコンペにより選ばれた古谷誠章氏の提案。CIイメージも表現している。

広い平面の中に、「カップヌードル」を模した形の3つの中庭を差し挟むことによって、奥行き深い平面の隅々にも自然採光がもたらされ、外壁にも開口が用意され自然換気が有効に行われている。何よりこの中庭が各ゾーンのコミュニケーションスペースともなっており、外壁沿いの自然環境に接した息抜きスペースとともに、緊張と弛緩、集中と交流という研究開発施設にとって不可欠な空間を自然に実現している。

ここで示された手法はいろいろなケースで大いに可能性を感じさせるものだが、方位によるルーバー断面の変位転調やプランの収斂がみられるとさらに面白かったのではと思う。（櫻井 潔）



鏡面ルーバー断面詳細図



D

E

- A エントランスホール。光環境を補完するためにカップヌードルのカップをモチーフとした逆円錐形の天庭を挿入している
- B 鏡面ルーバーによって覆われた外観。周囲の木々の高さを越えない低層の計画としている
- C 全体模型。馬蹄形の平地を持つ敷地に寄り沿う不整形な建物外形を採用

- D 大型の鏡面ルーバーは「切刃から麵が生み出される」ことにインスピレーションを得ている
 - E 鏡面ルーバーは直射光を遮りつつ、自然の持つ環境の揺らぎを柔らかな反射光としてもたらす
- 写真撮影 A・B・D・E...小川重雄